

ガバナー月信

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2010-2011

10 vol.4



国際ロータリー第2660地区

2010～11年度ガバナー 松本 新太郎

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

CONTENTS

ガバナー メッセージ 職業奉仕月間／米山月間	1
ガバナー 松本 新太郎	

2010年米山奨学委員長会議 およびカウンセラー研修会	8
米山奨学委員会 委員 和田 武彦	

職業奉仕月間に因んで 今こそ職業奉仕	2
職業奉仕委員会 委員長 鈴木 洋	

地区大会について	9
----------	---

米山月間によせて	3
米山奨学委員会 委員長 磯田 郁子	

米山奨学委員会・ロータリー財団	10
-----------------	----

ニコニコキャンプ報告	4
青少年活動委員会 委員長 末田 良介	

2010年8月度 会員数・出席報告	11
-------------------	----

米山奨学委員会 大学／地区意見交換	5
米山奨学委員会 委員 米田 猛	

文庫通信／敬弔	12
---------	----

インターアクト 韓国海外研修	6
インターアクト委員会 委員長 谷野 清孝	

ガバナー・エレクト業務開始のご案内 ガバナー補佐便り お知らせ	13
---------------------------------------	----

開発途上国とのGSE(研究グループ交換)プログラムについて カンボジアを訪れて感じたこと	7
研究グループ交換委員会 委員長 吉崎 広江	



10月は職業奉仕月間および米山月間です。

まず職業奉仕について、ロータリアンの間でよく「職業奉仕とはいったい何なのか、考えれば考えるほど、わからない」という声を耳にします。これに対する私の考えは、いたってシンプルです。「皆様の職業に日々、誠実に取り組んでいただくこと」。その姿勢さえ崩れなければ、あなたも立派に”職業奉仕”を実践されているのだと思います。

とすれば人間は、易きに流れがちです。油断をすれば気付かぬうちに職業倫理を見失い、不祥事や大事故という落とし穴に陥ってしまいかねません。そんな中で、例えば自身の言動を常に「四つのテスト」に照らしながら省みることで、職業人として社会に貢献していただく。それこそが、ロータリアンとしての真の強さなのではないでしょうか。

本年度の地区テーマは「ロータリークラブについてもう一度考えてみませんか」です。100年以上の歴史と伝統を誇るロータリークラブですが、今こそもう一度、原点に立ち返って見つめ直していただきたい。そんな願いを込めています。

そしてこのテーマは、皆様方の職業にもそのまま当てはまるのではないかと考えています。長年その職に浸り続けている中で、どこかしらズレや歪みが生じてきてはいませんか。「あなたの職業についても、もう一度考えてみませんか」。

創業時に抱いた理想や、現在の職に就かれた当初の高い志を思い起こしていただくことで、あなたの職業奉仕の「新たな一歩」が始まるのではないのでしょうか。

次に米山記念奨学事業についてですが、この事業の尊さと意義を、地区内の全ロータリアンによりよくおわかりいただくことが、私の願いです。「また寄付か」という不満が、米山に対する理解不足に起因していることは明らかです。当然のことながら人間は、理解のできないモノやサービスに対しては、お金は払いたくないものです。

そうした意味からもぜひ今月は、例会の卓話などを通じて、会員の皆様の理解を深めていただく機会にしてください。第2660地区でも地区委員会の皆様や各クラブの米山担当者を中心に、この事業に対して多大なるご尽力をいただいております。そうした皆さんの努力を受けて、当地区の全会員が米山に対して理解を示していただき、その事業に参加、協力できる喜びを共有していただける。そしてそんな状況が次の世代にも確実に受け継がれていく。こうした体制が確立することを期待しています。

わが国独自のロータリー活動、そしてまた国内最大規模の奨学金制度として、私たちロータリアンが胸をはって内外に誇ることのできる米山ですが近年、様々な課題を抱えていることも事実です。会員数減少にともなう奨学金の減少や奨学生の選出方法、奨学期間終了後の問題などが指摘されていますが、米山の良き伝統は守りつつ、変えるべきところは変えていく必要があることは確かです。そうした意味からも今月は、米山についてももう一度、考えてみませんか。



ロータリー発足の当初に、アーサーシェルドンが「service」と職業奉仕の理念を提唱してから100年が過ぎました。ロータリーの真髄ともいえる職業奉仕の考え方が薄れていき、慈善運動でその価値観を高めようとしている姿に、多くの日本のロータリアンが失望感を持っていたと思います。しかし私は次の三つの理由からロータリーにとって「今こそ職業奉仕」活動が最も望まれている時だと考えます。

1. ロータリアンによる恥ずかしい事件

北海道の「ミートホープ事件」や京都の「漢字検定事件」のように、ロータリーの指導的立場の者が恥ずかしい事件を起こしています。職業奉仕の根本を今一度学び、お互いに研鑽し、高い倫理観を持って職業に取り組む会員を育成しなければなりません。

2. 少ない経費で効果の大きい奉仕

経済状況の厳しい時だから「少ない経費で効果の大きい奉仕」を企画する必要にせまられています。幸いロータリークラブは、各界各層の専門家の集団ですから、その専門的知見を生かした奉仕(例えば出前授業、よろず相談等)を実施すれば「ローコストでハイエフェクト」な事業が可能になります。

3. 職業奉仕に対するRIの変化

「忘れられた職業奉仕」などと揶揄されていた時期もありましたが、RIは2007～10年の長期計画の新しい7つの項目の一つに、「職業倫理の高揚、職業技能の開発」等、具体的な実践目標を掲げて、取り組みを強化

しました。又10年ぶり(2007～8年度)にRIに職業奉仕委員会が立ち上がりました。更に2009～10年度の国際協議会では職業奉仕に関するスピーチをブラジル人、アメリカ人のRI理事、そして過日RI会長ノミニーに選ばれた日本人の田中作次氏の3名が行う等、職業奉仕の大切さをRIも再認識しています。

〔職業奉仕に係わる人の役割〕

ロータリークラブは職業を絆とする人たちの集まりです。まず何よりも会員各自がその職業に関係する全ての人々の立場に立ち、高い倫理観を持って職業活動を行うことが大切です。そのような会員を育てる道場が、ロータリークラブであり毎週の例会なのです。そのためのプログラムの立案、実行、すなわち「入りて学び、出でて奉仕せよ」のための研修と勉強会の支援が大切な役割です。

〔本年度の地区職業奉仕委員会の強調事項〕

1. クラブ職業奉仕委員長を中心とする卓話とフォーラムの実施

10月の職業奉仕月間に、各クラブで卓話を基調とするフォーラムを実施して頂きます。

2. 会員による職業卓話の推進

会員各位に自らの職業に関して、倫理上素晴らしいと胸をはれる内容、或いはロータリアンとして少し恥ずかしいような内容などを含めた職業卓話をしていただくことを推奨します。

3. 出前授業の推進

10年来行ってきた「出前授業」を更に推進します。



「私は国費留学生に負けない日本で一番幸せな私費留学生です」。米山奨学生終了式で、ある中国の米山奨学生が壇上でそうスピーチをしました。彼女は米山奨学生であったことを誇りにし、これからの人生を歩んでいってくれることと思います。

今月は米山月間です。皆様はすでによくご存知のことと思いますが、米山奨学制度は日本のロータリーが誇るべき独自の制度です。この留学生への支援は、未来に向かって平和の懸け橋をかける尊い奉仕なのです。

その結果はすぐに出るわけではありません。奨学金を受けている期間、一生懸命に勉学に励み、その後日本で就職する学生、帰国して就職する学生と進路は様々ですが、米山奨学生としての1年ないしは2年間の日本での経験やロータリーとの出会い、繋がりは彼らにとって忘れられない宝物になっています。そしてその感謝の気持ちをいつか形にしたいと思っています。

先日上海で行われた「第2回中国学友会総会」の会場には“感恩・交流・奉仕”というテーマが掲げられていました。そして「日本のロータリーへの感謝を伝え、幅広く交流を行い、奉仕活動をスタートする」と学友会活

動方針を会長が表明しました。中国の学友が寄せる深い感謝の気持ちが伝わった今回の総会・懇親会は、学友、ロータリアンそれぞれの胸に大きな感動を刻んだに違いありません。

私たちが米山奨学制度のすばらしさをいくら口で説明したところでなかなかご理解いただけるものではありません。皆様のクラブが世話クラブとなり、カウンセラーとして奨学生と関わることによって、この制度のすばらしさを実感していただけたと思います。そのために是非、次年度以降はまだ世話クラブになったことのないクラブの皆様にも積極的に受け入れをお願いしたいと思います。

彼らが母国に帰ったとき、この日本での留学生活で得たことを国で生かしていく中できっと彼らを感じた日本、出会った日本人のことを国の人々に話してくれると思います。そして日本のよき理解者となってくれると思います。それが日本の平和、もっと言えば世界の平和へつながっていくのだと思います。それは大変地道なことではありますが、この私たちの米山奨学事業の最も大切なところであり、その成果だと思います。引き続き、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

今年の少年少女ニコニコキャンプは「星降る山で友に出会える思い出の夏!」をテーマに、開講式では松本新太郎Gに御挨拶を頂き、枚方RC、枚方RACのホストのもと、2泊3日のプログラムで実施されました。心配されました天候も暑すぎるぐらいの晴天で、申し分のない3日間を枚方野外活動センターで過ごす事が出来ました。

参加されました小学校4年生から6年生の64名。枚方RACを中心としたRACメンバー 13名が現場リーダーとなって3日間子供たちを見守ってくれました。そして、青少年活動の縁の下をいつも支えてくれているチームライラのメンバーも、裏方さんとして協力してくれました。

1日目のカレー作りに始まり、初めての経験の子供たちも多かった天体観測。竹のコップ作り、ダッジオーブンでの丸鶏料理、BBQにキャンプファイヤーと楽しい事が盛りだくさんだった2日目。最終日も焼き板づくりと岡部泰鑑GEをお招きしての閉講式。修了証とたくさんのおみやげと思い出が出来た3日間でした。

このニコニコキャンプを通して、自然の中で多くの体験をし、団体生活の大切さ、助け合う事から生まれる友情が皆さんの心に芽生え始めた事と思います。この大切な経験や思い出を胸に刻んで、これからの学校生活やご家庭での生活に積極的に取り組んで頂ければ、幸いです。

最後になりましたが、約1年がかりでこのプログラムを企画・実施して頂きました澤村枚方RC会長、枚方RC小野実行委員長はじめ実行委員会メンバー、クラブメンバーの皆さん、枚方RACならびにRACの皆さん、そしてチームライラのみみんなに感謝を伝えたいと思います。ありがとうございました。

そして、最後の最後に、来年も無事にこの少年少女ニコニコキャンプを吹田江坂RCクラブ、関西大学RACのホストのもと、実施できるようになった事に感謝して、御報告とさせていただきます。

皆様、本当にありがとうございました。



日時：2010年7月26日(火) 15:00～17:00

場所：ガバナー事務所

参加者：磯田委員長、武島副委員長、村橋、吉田、和田、西谷、有竹、小山、田中、中川、米田、榊原 各委員

大阪大学、大阪教育大学、大阪市立大学、大阪成蹊大学、関西外国語大学、大阪電気通信大学、大阪工業大学、大阪商業大学、梅花女子大学、大阪経済大学、大阪国際大学、摂南大学、追手門学院大学、近畿大学、関西大学、大阪産業大学

(独)日本学生支援機構 大阪日本語教育センター、コミュニケーションアート、大阪ハイテクノロジー

7月26日、地区米山奨学委員会と大学等との地区懇談会がガバナー事務所会議室で行われました。2011年度の米山奨学生を選考するにあたり、22の指定校(3校は欠席)の担当者にご出席頂きました。

田中委員の司会のもと、磯田委員長から「ロータリー米山記念奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、世界平和の創造と維持に貢献することを目的としています。その使命は「将来、日本と世界とを結ぶ「懸け橋」となって、国際社会で活躍し、ロータリー運動の良き理解者となる人材を育成」することにあります。優秀とは「①学業」に対する熱意や優秀性はもちろんのこと、「②異文化交流」、「③コミュニケーション能力」への意欲や能力に優れている点が含まれます」と説明があり、「奨学生は奨学期間中にロータリーの例会や奉仕活動に参加することによって、日本の文化、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、世界平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます」と挨拶されました。

次に、武島副委員長からDVDによる説明がありました。「奨学生1人ひとりに、地域のロータリークラブから世話クラブが選ばれ、さらにその会員の中からカウンセラーが付いて、奨学生との交流を深め、彼らの日本での生活が心豊かなものになるよう配慮します。この事業

は、その成り立ちから「交流」を目的としたプログラムです。それを実現するための制度が「世話クラブ・カウンセラー制度」で、奨学生はロータリアンとの交流を通じて、奉仕の精神に触れ、自らの精神を磨き、人生観・職業観を深めます。また、ロータリアンにとっても、金銭的な支援だけでは得られない感動と、事業への深い理解が生まれて、さらなる支援への意欲を盛り立て、奨学生、ロータリアン双方にとって、大きな感動を生む事業だからこそ、50年以上も継続し、日本最大の民間奨学事業に成長しています」と。

その後、質疑応答に入り、指定校からは奨学生の選抜基準として「日本奨学資金機構の基準に準じている」「大学内の先生からの推薦で面接している」「学校行事に積極的に参加している学生を選んでいる」が挙げられ、それでいいのかという質問や、ロータリーのカウンセラー制度には大変感謝している等の意見も出されました。磯田委員長は、奨学生には学業優秀だけでなく、異文化理解や地域交流などへの積極的な姿勢が求められ、各クラブのロータリアンに好かれ、奨学金の終了後もロータリーや学友会と連絡を絶やさないようにできる人が好ましいと結ばれました。

大学側にとっても地区米山奨学委員会にとっても大変有意義な懇談会となりました。



2010年8月6日から3泊4日の日程で、担当校大阪浪速中学高等学校、提唱クラブ大阪住吉RCにより、国際交流を深めるため韓国(ソウル)第3650地区、Hanyoung外国語高等学校IACを訪問しました。

結団式では松本G、提唱クラブのメンバー、インターアクター父兄の皆様よりエールを送られ元気に出発しました。訪問団員は大谷PGを名誉団長に当地区、大阪浪速、清風、大阪桐蔭、四天王寺、金光八尾、相愛学園のインターアクター37名、顧問8名、ロータリアン9名の総勢54名です。今回の研修は韓国(ソウル)の文化及び伝統に触れ互いに理解を深めるというものです。特に今回は担当校である大阪浪速高校の雅楽部が日本の伝統文化を披露するために参加をしました。

1日目は、第3650地区全前総裁、南大門RC朴会長が金浦空港に出迎えに来られていました。そして一行は、自由の橋、統一展望台を見学しました。北朝鮮を目の前にして平和の大切さを考えさせられる思いでした。その後、ホテルに戻り交流会に備えて準備及びリハーサルを行いました。

2日目はホスト校であるHanyoung外国語高等学校を訪問してインターアクター17名と交流をもちつつ校内を案内されました。昼食は校内食堂に於いて現地の学

生生活の状況を知るよい機会でした。午後は日韓インターアクター共同奉仕活動としてshinawon養護施設を訪問して、大阪インターアクター3人と韓国インターアクター2人が一組になって清掃作業等々の奉仕に専念しました。インターアクターは、感激に満ちた顔でした。夜の交流会では、第3650地区の南大門RCホストで始まり大阪インターアクターは「雪の華」「今日の日はさよなら」を熱唱しました。続いて大阪浪速高校による雅楽の演奏、四天王寺学園による江戸時代の頃からの縁起物の門付け芸として親しまれている「南京たますだれ」を披露して日韓の交流会に花を添えました。

3日目は韓国民族村を観光してソウル市内(明洞)にて自由行動、午後はJump公演(ユーモアと武術で観客を魅了し世界中から注目)を観劇しました。夜はRI第3650地区とRI第2660地区との韓日インターアクト交流歓迎会をRI第3650地区のホストでAw Convention Centerで来賓として、李前RI会長を向え盛大に催されました。

最後の日は、景福宮、南大門市場を見学して解団式を行ない無事帰路に着きました。

今回の研修旅行は大谷PGを名誉団長として同行して頂き日韓交流の橋渡しになれたと思います。韓国の日常文化、生活を学び、今年度のRIのテーマ「地域を育み、大陸をつなぐ」という大スローガンの実現に向かって国際交流することができ、インターアクターにとっても将来役立つことだと思います。



開発途上国とのGSE (研究グループ交換) プログラムについて カンボジアを訪れて感じたこと

研究グループ交換委員会

委員長 吉崎 広江
(東大阪東RC)

GSEプログラムとは、25歳から40歳までの若い職業人(団員)4~5名と経験の深いロータリアン(団長)のチームを異なる地区間で交換するプログラムです。チームは4~6週間にわたり相手地区に滞在し、職業研修やプレゼンテーション、ホスト家庭との親睦等を行ないます。職業奉仕あり、国際奉仕あり、新世代奉仕ありと、ロータリーならではのユニークな教育プログラムです。今年度と来年度の2年間、当地区はスリランカ(D3220)とのチーム交換を予定しています。

スリランカとのGSEは、松本G・岡部GEの「アジアの開発途上国との交換希望」を実現したもので、第2660地区の長いGSEプログラムの歴史で、初めての試みです。しかしながら、アジアの開発途上国での職業研修となると、どのような成果があるのか大変不安に思っていました。

そんな中、クラブのWCS活動でカンボジアを訪れる機会があり、開発途上国とのGSEプログラムには大きな可能性があることに気づきました。それは、どんな分野の事であっても、日本の技術を伝えることは相手側にとって有益であり、相手の不足を知ることはこちらの学びになるという事です。

たとえば、カンボジアの建物は柱を作ったところにレンガで壁を作り、1階、2階と積み重ねて行きます。出来上がりからはそんなこととはわかりませんが、建築基準は無いと思います。また、夕方スコールが降ると町は洪水になり床上浸水状態です。それは、水の排水設計が出来ていないので低いところに水が集まってくるためです。

浸水してもいつもの事なので人々は平気ですが、衛生面でのリスクは見逃せません。もちろん、高等教育機関はありますが、実際の生活現場には還元されていない様です。16歳以下が人口の40%を占めるカンボジアでは、これからの教育が大切なのでしょう。

もしもこういう国からのGSEチームを受け入れたら、自国の問題点に気づき、解決策を考える機会を若い職業人に与えることができることでしょうか。また、こういう国にGSEチームを派遣したら、現地の状況を知り、どんな協力ができるのかを考えるでしょう。加えて、ロータリーならではの有力な人脈と、企業のグローバル化へのヒントを得ることができるでしょう。

今まで私は、職業的に何か高度な知識を得ることばかりが職業研修の成果かと思っていました。しかし、RIによれば、GSEプログラムの職業研修とは「observe how their vocations are practiced abroad, develop personal and professional relationships, and exchange ideas.」(外国で自分の仕事かどのように行われているのかを見たり、個人的・専門的關係を作ったり、アイデアを交換したりすること)だそうです。これは、どんな国や地域、どんな職種の人にでもあてはまるのです。

第2660地区内クラブのみなさま、来年3月26日いよいよスリランカチームが来日します。松本G、岡部GEから頂いた「アジアの開発途上国との交換」というテーマに、みなさんと一緒に取り組むのを楽しみにしております。

ご協力どうぞよろしくお願いいたします。



2010年米山奨学委員長会議 およびカウンセラー研修会

米山奨学委員会

委員 和田 武彦
(大阪梅田東RC)

2010年米山奨学委員長会議およびカウンセラー研修会は8月7日午前10時から、大阪薬業年金会館に於いて、松本ガバナーをはじめ各クラブ米山奨学委員長及びカウンセラーなど約100名の出席のもと開催されました。司会・進行は西谷地区委員が担当しました。

はじめに、松本ガバナーから「本日の研修会で、米山記念奨学活動の素晴らしさを再発見して戴き、今後の活動の励みになるよう希望します」とのご挨拶がありました。

続いて、地区米山奨学部門顧問若林パストガバナーより「米山奨学会の今後の展望」と題して、

- ・最近世相を反映して寄付金額が減少傾向にある。
- ・ロータリアンも感動するものがないと寄付が集まりにくいので、未だ奨学生を受け入れて無いクラブの方々は、是非奨学生を受け入れて、素晴らしさを実感して戴きたい。
- ・苦学生への援助型から知的貢献型に奨学生の選考基準が変わって来ている。
- ・4年前に始めたベトナムでの現地採用型が3年間で6名の奨学生を受け入れ、そのテスト期間が終った。現在、その評価を検証中である。

などのご挨拶がありました。

次に、磯田委員長から、「カウンセラー研修会で伝えたいこと」をテーマに、スライドを使って、最近の留学生

事情や、異文化交流の難しさを踏まえた奨学生との接し方などの具体的な問題点、更には米山奨学制度独自のカウンセラー制度の素晴らしさなどの説明がありました。「米山奨学生に選ばれたことを誇りに思い、これからの人生の中で、米山奨学生であったことが大きな自信になります」などの奨学生のエピソードも紹介されました。

そのあと、全出席者が8つのグループにわかれ、

★カウンセラーを引き受けてみて疑問に思ったこと、奨学生のお世話で困ったこと、良かったこと

★ロータリアンの米山記念奨学事業の理解を深め寄付金を増やすにはどうすればよいか

の二つのテーマでグループ討議が行われました。

さすが、猛暑のなかご出席されたメンバーだけあって、各グループで活発な意見交換が行われ、その後各グループリーダーから討議内容の発表が行なわれました。

岡部ガバナーエレクトから、講評と熱心な議論に対する賛辞がありました。

最後に磯田委員長より、米山奨学金事業に対する理解を深めるためにも、地区としての受け入れ奨学生を増加させたい。その為には是非米山奨学事業への寄付を増やして戴きたいとお願いをされました。

猛暑の中をご出席戴き、最後まで熱心にご討議戴いたことへのお礼の挨拶で2時間に亘る研修会は閉会しました。



国際ロータリー第2660地区
2010～2011年度 **地区大会**

日時 2010年10月29日(金)・30日(土)
場所 大阪国際会議場・リーガロイヤルホテル大阪
ホストクラブ 八尾ロータリークラブ

Enjoy & Learn

奉仕活動を通じて感動を分かち合おう

第1日目

2010年10月29日(金)
大阪国際会議場 メインホール
●開会式 14:00～
●分科会 15:00～

- ◇会長幹事会 青山 繁晴 氏
- ◇五大奉仕・新入会員 アグネスチャン 氏
- ◇ロータリー財団 倉内菜穂子 氏
- ◇米山記念奨学会 カストロホアン・ホセ 氏



アグネスチャン氏



青山 繁晴氏

- ◇家族の集い
国立国際美術館
「マン・レイ展」
登録料 無料



- ◇RI会長代理歓迎晩餐会
リーガロイヤルホテル大阪 光琳の間
18:00～20:30

第2日目

- 2010年10月30日(土)
大阪国際会議場 メインホール
- 本会議 13:00～17:50
 - ◇第1部 決議案、表彰、報告
 - ◇第2部 東儀秀樹と古澤 巖「コンサート」



雅楽とヴァイオリン、究極のハーモニー
映像と音楽による感動のフィナーレ

地区米山奨学委員会より

2010年7月末	全国寄付金合計額	197,216,823円 (前年度比 5.62%減)
”	第2660地区寄付金合計額	8,932,250円 (前年度比23.62%減)
2010年7月末	全国寄付合計トップ10	
	1. 第2760地区	13,149,500円
	2. 第2770地区	12,125,500円
	3. 第2750地区	10,518,680円
	4. 第2590地区	10,483,000円
	5. 第2650地区	9,172,000円
	6. 第2660地区	8,932,250円
	7. 第2710地区	8,602,000円
	8. 第2690地区	8,117,000円
	9. 第2580地区	7,536,950円
	10. 第2700地区	7,026,250円

米山功労者

次の方たちに米山功労者の称号が贈られました。
(2010年7月)

氏名	回数	クラブ名
水上 雅博	1回目	東大阪東RC
須崎 洋一	7回目	東大阪東RC
堀田 修平	10回目	枚方RC
南井 恒治	1回目	香里園RC
中田 八朗	7回目	大阪東淀ちゃやまちRC
岡部 泰鑑	5回目	大阪城南RC
渡邊 邦雄	10回目	大阪城南RC
延原 久雄	7回目	大阪大淀RC
矢野 巖	4回目	大阪大淀RC
原野 圭司	15回目	大阪住吉RC

米山功労クラブ

次のクラブに米山功労クラブの称号が贈られました。
(2010年7月)

クラブ名	回数
枚方RC	22回目

ロータリー財団

ポール・ハリス・フェロー

次の方たちにポール・ハリス・フェローの称号が贈られました。(2010年)

河野 武夫	吹田RC	09/12/11
坂本 まゆみ	大阪中央RC	7/2
岡村 雄二	大阪大淀RC	7/23
末岡 稔啓	大阪大淀RC	7/23

ロータリー財団

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

次の方たちはマルチプル・ポール・ハリス・フェローです。(2010年)

西尾 寛一	4回目	大阪柏原RC	09/1/30
長谷川眞哲	1回目	大阪大淀RC	7/23
橋本 佳明	2回目	大阪大淀RC	7/23
井原 巖	5回目	大阪大淀RC	7/23
岩本 潤三	4回目	大阪大淀RC	7/23
伊津 政美	1回目	大阪大淀RC	7/23
大石 正守	1回目	大阪大淀RC	7/23
野々原喜久夫	3回目	大阪南西RC	09/2/20

「ロータリー文庫」は日本ロータリー50周年記念事業の一つとして1970年に創立された皆様の資料室です。

ロータリー関係の貴重な文献や視聴覚資料など、2万余点を収集・整備し皆様のご利用に備えております。閲覧は勿論、電話や書信によるご相談、文献・資料の

出版先のご紹介、絶版資料についてはコピーサービスも承ります。また、一部資料はホームページでPDFもご利用いただけます。

クラブ事務所にはロータリー文庫の「資料目録」を備えてありますので、ご活用願います。以下資料のご紹介を致します。

地区大会報告書より

- 「運命とロータリーの未来」 ビチャイ・ラタクル 2010 12P (D.2670)
「よきロータリアン 指導者としてのロータリアン」 渡辺 好政 2010 14P (D.2710)
「ロータリー財団」 北 清治 2010 5P (D.2560)
「ロータリーの原点を知る『決議23-34号』」 パネル・ディスカッション
安孫子 貞夫 他 2010 13P (D.2800)
「世界と高知 会員の状況」 杉谷 卓紀 2010 5P (D.2670)
「江戸時代の日本に学ぶもの」 徳川 恒孝 2010 5P (D.2560)
「これからの日本」 小泉 純一郎 2010 9P (D.2630)
「落語でお伊勢参り」 桂 文我 2010 6P (D.2630)

[上記申込先：ロータリー文庫(コピー/PDF)]

ロータリー文庫

〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-15 黒龍芝公園ビル3階
TEL(03)3433-6456 FAX(03)3459-7506 <http://www.rotary-bunko.gr.jp>
開館＝午前10時～午後5時 休館＝土・日・祝祭日

敬 弔 謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

佐野 元英 会員
(大阪平野RC)
2010年8月27日逝去(享年69歳)

会長、幹事、会計、会場監督
ロータリー財団委員長、親睦活動委員長、世界社会奉仕委員長
プログラム委員長、会員増強委員長、クラブ奉仕委員長
会員選考委員長、青少年委員長、国際奉仕委員長

米山功労者
マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

ガバナー・エレクト業務開始のご案内

ガバナー・エレクト 岡部 泰鑑 (大阪城南RC)
次期地区代表幹事 境 高彦 (大阪城南RC)

10月1日よりガバナー・エレクト業務をスタートいたしました。

- 所在地 〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6F
電話：06-6264-2660 FAX：06-6264-2661 E-mail：gov@ri2660.gr.jp
- 執務時間 月曜日～金曜日 9:30～17:00 ※土・日・祝は休ませていただきます。
- 事務局員 栗正 久美

ガバナー補佐便り



IM第1組ガバナー補佐 道満 隆 (豊中一大阪国際空港RC)

期初に病気療養中の宮内敏光ガバナー補佐が急逝されるという事態が生じたので急遽、松本ガバナーの要請を受けまして来年度の予定であった私が、本年度のガバナー補佐として繰り上げて就任する運びとなりました。

7年前にもガバナー補佐を経験しておりましたので、何とか頑張って地区や受け持ちのRCの皆様にご迷惑をおかけしないよう務めたいと思っております。

任務としては、ガバナーを補佐して地区の方針や情報、支援を各クラブに伝えるのが本旨であることはもちろんですが、それとともにクラブの意見や希望をくみ上げて地区やRIに反映してもらうように務めることも、大切な役目であると考えております。

地区とクラブとの双方向のパイプ役。これが就任にあたっての私の抱負です。よろしくお願ひ申し上げます。

「お詫びと訂正」 月信9月号 8ページ 2010年7月度 会員数・出席報告の7月末会員数に誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

大阪ユニバーサルシティ (誤) 29 → (正) 27
合計 (誤) 3805 → (正) 3803

「お知らせ」 大阪ネクストRC 年会費変更 60,000円 → 70,000円

月信編集委員会からのおねがい

- ガバナー事務所への月信に関するご連絡は、FAXまたはE-Mailにてお願い致します。折り返し、できるだけ早くご連絡致します。
- 投稿は原稿（写真付きの場合は一緒に添えて）を掲載月の前々月20日までに、事務所必着でお送り下さい。原稿はなるべくパソコンでの作成をお願い致します。掲載の採否、字数の整理、並びに止むを得ない掲載月の変更等につきましては、月信編集委員会にご一任下さい。
- 物故会員のご連絡は、専用の用紙にてFAXをお願い致します。
- 今年度の月信につきましては、各クラブ理事・役員・事務局・備品用に、各クラブの会員数に応じて部数を設定し、無料配布いたします。また、ご希望の会員には有料（年間2,200円・1冊200円）配布とさせていただきますので、出来るだけ多くの方のお申し込みをお待ちしています。

月信編集委員会

- ・ガバナー 松本新太郎
- ・地区代表幹事 池尻 誠
- ・地区副代表幹事 吉本 憲司
- ・担当地区幹事 小山 悦治
- ・担当地区幹事 笠井 実
- ・担当地区幹事 奥谷 英一
- ・事務局長 今井 貢二

2010～2011年度 国際ロータリー第2660地区 【ガバナー事務所ご案内】

●事務局スタッフ

ガバナー	松本新太郎
地区代表幹事	池尻 誠
地区副代表幹事	吉本 憲司
事務局長	今井 貢二
事務局員	栗正 久美
	春名 志保
	大西 麻容

●休 日

土曜、日曜、祝日
 年末年始
 2010年12月29日(水)～
 2011年1月4日(火)

●所在地・電話・ファックス

〒541-0052
 大阪市中央区安土町1-5-11
 トヤマビル東館 6階
 TEL：06-6264-2660
 FAX：06-6264-2661

ガバナー事務所に会議室を併設いたしております。

最多 36名

詳細はガバナー事務所までお問い合わせ下さい。

●ホームページアドレス

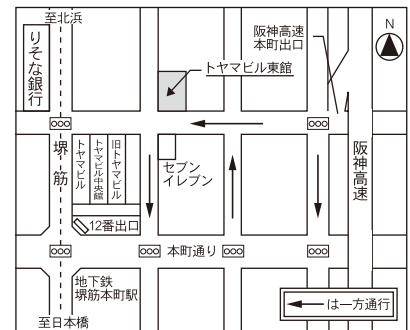
<http://www.ri2660.gr.jp/>

●メールアドレス

gov@ri2660.gr.jp

●勤務時間

9：30～17：00



※地下鉄堺筋線 堺筋本町駅 12番出口すぐ

国際ロータリー第2660地区

〒541-0052 大阪市中央区安土町1-5-11 トヤマビル東館6F
 電話 06-6264-2660 Fax 06-6264-2661 E-mail:gov@ri2660.gr.jp

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2660

6F Toyama Bldg, East 1-5-11 Azuchi-machi Chuo-ku OSAKA 541-0052 JAPAN
 Phone.+81-6-6264-2660 Fax.+81-6-6264-2661 E-mail:gov@ri2660.gr.jp